

司式 熊田雄二牧師

奏楽 大日南苗香姉妹

前 奏

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 38 : 1.2 いさおなきわれを

**いさおなき我を血をもてあがない イェス招きたもう みもとに我ゆく****罪とがの汚れ洗うによしなし イェスキよめたもう みもとに我ゆく アーメン**

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 3 罪 の 告 白 ②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 38 : 3.4 疑いの波も

**疑いの波も恐れのみも イェスしずめたもう みもとに我ゆく****心の痛手に悩めるこの身を イェスいやしたもう みもとに我ゆく アーメン**

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 17 復 活 節 第 四 主 日 主 の 着 座

ぜんのう ちち かみ 全能の父なる神さま、あなたは、しょうてん しゅ 昇天された主イエスを、あなたのみぎ ぎ おう 右に座す王とし、あらゆるものが、しゅ 主イエスのみな 御名にひざまづくようにされました。

それゆえ、あがな ぬし 贖い主イエス・キリストは、ばんぶつ しゅ 万物の主、とりわけ、きょうかい こっか しゅ 教会と国家の主であられると告白します。主がすべてのけんい けんりょく う ほろ 権威と権力を打ち滅ぼして、えいえん みくに 永遠の御国をあなたにお渡しになるとき、うちゅう しゅけん しほい ばんにん め あき 宇宙に対するその主権と支配は、万人の目に明らかになることを覚え、おぼ みな 心から賛美します。(ルカ22、フィリピ2、「教会と国家」四)

献 金 (黒) 東部中会回転基金 (赤) 東部中会回転基金 70

**今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン**

聖 書 朗 読 ルカによる福音書7章1～10節(新約聖書114頁)

説 教・ 祈 禱 「これほどの信仰」 熊田雄二牧師

\* 賛 美 歌 38:5.6 頼りゆく者に

頼りゆく者に救いと命を イエス誓いたもう みもとに我ゆく

いさおなき我をかくまで憐れみ イエス愛したもう みもとに我ゆく **アーメン**

\* 主 の 祈 り 祈 禱 書 1

てん われ ちち 天にまします我らの父よ

ねが みな 願わくは御名をあがめさせたまえ

みくに き みこころ てん 御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

われ にちよう かつて きよう あた 我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

われ つみ おか もの われ ゆる われ つみ ゆる 我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

われ こころ あ あく すく いだ 我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

くに ちから さか かぎ なんじ 国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり **アーメン。**

\* 頌 栄 69 父の御神に・御子に・聖き御霊に

昔ながらの御栄えあれや ときわにアーメン、アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇献一長老(司会・受付 次週:古澤兵庫長老)

本日 受付 1階:若月学執事 2階:加藤良明執事 / 動画:門脇光生兄弟 録音:森永翔馬兄弟

次週 受付 1階:藤井牧子執事 2階:藤原宏章執事 / 動画:番場駿也兄弟 録音:大日南信也執事

## I 百人隊長の部下

古代ローマの軍隊で、百人隊長は千人隊長ほど位の高い軍人ではありませんが、この百人隊長は部下を大事にして愛していました。カファルナウムというガリラヤ地方の町の治安維持にあたっている軍隊の隊長ですが、ユダヤ人をも大事にして愛していました。

マタイ福音書では、隊長が直接イエスに会いに来たと書いてあるのですが、ルカ福音書ではユダヤ人の長老たちを使いに行ったと書いてあります。そして、長老たちは、熱心にイエスにお願いしたと書いてあります。4節「あの方は、そうしていただくのにふさわしい人です。私たちユダヤ人を愛して、自ら会堂を建ててくれたのです。」

「会堂を建ててくれた」！ 「会堂を建ててくれた」という人がいれば嬉しいですね。私たちも、新会堂を建ててくれたという人がいれば大いに嬉しいですね。そうすれば借金ゼロです。しかし、ユダヤ人のシナゴグという会堂は、小さい集会所です。それにしても、「建ててくれた」というのは嬉しいですね。もちろん、工事や大工をしてくれたということではなくて、お金を出してくれたことなのでしょう。百人隊長は、それほど金持ちだったのでしょうか。自分のポケットマネーで会堂を建ててくれたのでしょうか。

ローマ帝国のユダヤ人政策は、彼らが信じる神を礼拝することを認め、特にエルサレム神殿の特権を認めるというものでした。ユダヤ人はギリシャ・ローマの神話の神々を礼拝しないことを理解していましたので、ユダヤ人に偶像礼拝を要求しなければ、治安維持はできると知っていました。そこで、ユダヤ人政策には予算も付いていたことも考えられます。

「ローマの平和」という「パックス・ロマーナ」の政策が歓迎されたことの一つには、民衆が喜びそうなことをすることがありました。たとえば、「コロシウム」という格闘技場や円形劇場をローマだけでなく、帝国内のあちこちの主要な都市に建てて民衆を喜ばせました。コロシウムや円形劇場に比べれば、シナゴグなど大した予算ではありません。

また、広大な領土を治めるには、百人隊長や千人隊長という、聖書に出てくるような軍人が必要なわけですが、兵士の多くは雇われ兵、すなわち傭兵でした。これには相当の予算が必要で、だんだんローマ帝国の首を絞めることになります。百人隊長や千人隊長の中には、使徒パウロのようにローマ帝国の市民権を持っている人もいましたが、傭兵はほとんど外人部隊でしょう。

百人隊長とその部下は、ローマ帝国の市民権を持っている人と傭兵という関係にあったことも考えられますが、ユダヤ人からしたら両方とも異邦人です。百人隊長からしたら、部下もユダヤ人も大切にすべき人間です。百人隊長には人を大事にするという心の基本があったことを教えられます。特に兵士の命を大切にすることは、軍人のリーダーとして基本的な心がけでしょう。

## II 「これほどの信仰」とイエスが言われた百人隊長の信仰とは

百人隊長は、イスラエル人ほど聖書知識はありません。しかし軍人らしいことを「友達を使いに行って言わせた」のです。7節「ひと言おっしゃってください。そして、私の僕をいやしてください。」8節「私も権威の下に置かれている者ですが、私の下には兵隊が

おり、一人に『行け』と言えば行きますし、他の一人に『来い』と言えば来ます。また部下に『これをしろ』と言えば、そのとおりにします。」

そこで9節、「イエスはこれを聞いて感心し、従っていた群衆の方を振り向いて言われた。『言っておくが、イスラエルの中でさえ、私はこれほどの信仰を見たことがない。』」そして、マタイ福音書では、百人隊長に直接「あなたが信じたとおりになるように」と言われました。これは、「あなたの信仰があなたを救った」という言い方でよく出て来ます。

百人隊長の信仰とは何でしょう？ 「上からの命令は絶対で、その言葉は力を持っています、だから言葉だけください」と言ったので、イエスの言葉は力を持っていてその通りになるという信仰です。そこでこの癒しは、イエスが言葉なる神であることを証ししています。言葉で出来事を起こす神です。創造においても救いにおいても、言葉だけで業をなす神です。百人隊長はイエスが神であること、「イエスは主である」と信仰告白したのです。

これほどの信仰を、この時点では、ユダヤ人の弟子たちはまだ持っていませんでした。しかし、よく注意してみると、主イエスは「ユダヤ人でさえ」と言われたのではなく、「イスラエルの中でさえ」と言われたのです。これはマタイも同じで、「イスラエルの中でさえ」と言っています。

ユダヤ人とイスラエルの違いは、ユダ族がイスラエル十二部族の一つ、あるいはパウロが属していたベニヤミン族も加えて二つの部族がユダヤ人であるのに対し、イスラエルと言えば、イスラエル十二部族すべてです。そこで、マタイ福音書の方では、「イスラエルの中でさえ」に続けてイスラエル十二部族の成立を意味する「アブラハム、イサク、ヤコブ」という族長三人セットで名前を挙げて、「東や西から大勢の人が来て、天の国でアブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席に着く」と言っておられます。

そう言っておられるだけでなく、さらに「だが、御国の子らは、外の暗闇に追い出される。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう」と言っておられます。そこで「イスラエルの中でさえ」という言い方には、イスラエルが不信仰のゆえに滅ぼされたことが含まれています。ソロモン王のあと国は北イスラエルと南ユダに分裂し、北イスラエルはアッシリアに滅ぼされ、南ユダはバビロンに滅ぼされました。そこで、「アブラハム、イサク、ヤコブ」に約束された「御国」すなわち「約束の地」は、信仰がなくなったら入れないことを意味しています。

### Ⅲ 信仰の本質

それゆえ、「イスラエルの中でさえ」という言い方は、福音がイスラエルから異邦人に及ぶことを含んでいます。しかし、異邦人も信仰がなくなったら「御国」に入れないのは同じです。イスラエルの中には、イエスを十字架に架けろと叫んだ多くのユダヤ人がいますが、悔い改めて「イエスは主である」と信じたユダヤ人も起こされました。パウロのようにクリスチャンを迫害した人もいますが、悔い改めて御国の福音を宣べ伝える使徒とされたユダヤ人も起こされました。

主イエスから「これほどの信仰」と言われた異邦人の百人隊長は、ユダヤ人ほど多くの聖書知識を持っていたわけではないのですが、信仰の本質を持っていました。私たちも、どれほどの信仰を持っていようとも、信仰の本質を外していたら、滅ぼされたイスラエル

と同じです。イスラエルが滅ぼされたのは、主をほかの神々と混ぜ合わせてしまったことです。これが主の怒りを買いました。

私たちにも十分同じ状態になる状況があります。一年中あります。正月からクリスマスまで一年中あります。キリスト教を仏教や神道と混ぜ合わせている状況があります。一神教は妥協しないから争いを起こすが、混ぜ合わせた宗教的多元主義は平和であるという理屈と共にあります。その理屈は、侵略戦争という歴史的事実と合いません。またその理屈は、宗教を文化にしまえば多くの人にウケるという、滅びに至る広い門に通じています。

百人隊長はユダヤ人を愛して会堂を建ててくれたほどの人でした。ユダヤ人の一神教を大事にしていました。主イエスに出会って、愛する部下をいやしていただいたので、ますます一神教を大事にする人になったことでしょう。いや、主イエスから「これほどの信仰」と言われたのですから、まことの一神教を大事にする、キリストを愛するキリスト教徒になったことでしょう。